

創立20周年で  
JABMEE

# 独自に表彰制度創設

## 11月式典、仮想科学館も



牧村会長

建築設備技術者協会（JABMEE）の牧村功会長は、創立20周年を機に、協会独自の表彰制度を創設する考えを明らかにした。「会誌『建築設備』に毎年、竣工物件や技術開発、技術論文を掲載しているが、その中から優れた

作品、研究・技術開発を1年に1、2件、それぞれ表彰する」（牧村会長）という。1年に1回、5月の総会で表彰する予定で、次回9月末の理事会で提案、機関決定し、早ければ2010年の総会で表彰する。20周年記念事業は、11月6日に記念式典、記念講演会を開くほか、11月初めにもホームページ（<http://www.jabmee.or.jp/>）上に建築設備の「バーチャル科学館」を立ち上げるなどする。

記念事業は、「美しい地球を次世代へ」―ストップ・ザ・温暖化―を統一テーマとして掲げ、「20周年を節目に地球環境に対する取り組み、会員を始め、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）を低減するためのツール、情報提供のきっかけにする」（同）。昨年10月には、ホームページも一新した。

記念講演会は6日、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開く。「美しい地球を次世代へ」富士山から日本を

変える」をテーマに、アルピニストの野口健さんが話す。また、「建築設備技術者への期待」をテーマに、パネルディスカッションを企画した。

国立環境研究所の藤野純一主任研究員が「低炭素社会に向けた建築分野の役割」について基調講演するほか、早大の田辺新一教授をコーディネーターに、ペリクラークペリアーキテックスジャパンの光井純代表、山下設計の大山有紀子さん、徳弘建築設計事務所の徳弘洋子代表らをパネリストにパネルディスカッションする。

「バーチャル科学館」は、古い空調・衛生、電気設備、搬送設備を始め、建築設備の資料を新旧、年表方式でまとめ、建築設備のポータル（ネット上の玄関）サイトとして建築技術者に限らず、一般市民、学生に提供し、建築設備の知識の習得と普及に役立てる。

このほか、会誌『建築設備士』の記念特集号を発行するほか、関東支部が環境をテーマに建物のライフサイクルをまとめた（仮称）『脱温暖化』の発刊を進めるなど、各支部も記念事業を企画している。

# 記念講演、式典など開催

11月6日に創立20周年

## HPにバーチャル科学館も

協会 設者 建築 技術

建築設備技術者協会（牧村功会長）は、協会が今年11月6日に創立20周年を迎えることから、「美しい地球を次世代へ」を創立20周年記念事業統一テーマに掲げ、様々な事業を展開する。



同日には、記念講演会、パネルディスカッション、記念式典を東京・千代田区の大手町サンケイプラザで開催するほか、ホームページ上に、建築設備に関する知識の習得と普及を目的とするバーチャル科学館を設立する。会誌「建築設備士」記念特集号も発行。各支部でも様々な事業を展開し、このうち関東支部では、技術絵本の第2弾を発行する。また、20周年を節目に、協会独自の表彰制度を設けることの検討を進めている。

記念講演では、アルビニストの野口健氏が、「美しい地球を次世代へ」富士山から日本を愛する「く」をテーマに、講演を行う。続いて、藤野純一

国立環境研究所地球環境研究センター温暖化対策評価研究室主任研究員による「低炭素社会に向けた建築分野の役割」をテーマにした基調講演、田

辺新一早稲田大学創造理工学部建築学科教授をコーディネーターに、藤野氏をはじめ、光井純ペリクラークペリアーキテクトジャパン、光井純&アソシエーツ代表、徳弘洋子徳弘建築設計事務所代表、大山有紀子山下設計環境設計部門機械設備グループ、川瀬貞晴建築設備技術者協会創立20周年記念事業実行委員長、千葉大学大学院工学研究科教授をパネリストに迎え、「建築設備技術者への期待」をテーマにしたパネルディスカッションを行う。

記念式典では、功勞者表彰や、賛助会員に対する感謝状の授与などを行う。バーチャル科学館は、古い建築設備（主に空調・衛生・電気設備・搬送設備）に関する資料の散逸防止と、建築設備に関する新旧資料を年表形式でまとめ、建築設備技術者をはじめ、一般市民や学生にも提供し、建築設備に関する知識の習得と普及を目的にホームページ上に設立するもの。これにより、建築設備の役割「文化」「技術」の理解を深めてもらうとともに、建築設備業界に対する認識の向上を図る。11月6日には、見ることでできるよう、作業を進めている。

会誌「建築設備士」記念特集号の発行では、各著者に、個々の技術手法や要素技術について、過去・現在・未来といった時間軸を念頭におき、技術の変遷・進歩・将来展望などの観点を取り入れてもらう。さらに、「地」「水」「風」「光」「熱」「伝」「生」「人」など、各記事に関連する漢字一字を当てはめるなどして、今、未来に向かって考える必要がある視点として、読者へのメッセージとする。

関東支部の技術絵本第2弾については、「脱温暖化」建築設備技術の将来像（仮題）を発行する。建物の設計、施工、運用、改修、解体・リサイクルまでの流れに沿って、建築設備技術者の取り組みを紹介する。業界関係者も活用でき、かつ一般市民にもわかりやすい内容とする。

このほか、これまでに、20周年の一環として、協会ホームページを一新しており、建築設備のポータルサイトを自指している。

同協会の牧村会長は「20周年をきっかけとして、協会が環境をテーマに、どのようなことに取り組んでいるかなどを広く発信する」と述べた。

来年から

JABMEE

## 優秀技術に表彰制度

建築設備技術者協会（JABMEE、牧村功会長）は、優秀な建築設備技術を顕彰するための表彰制度を創設する。優秀な建築作品、研究・開発を表彰する制度として検討しており、今月中に理事会で機関決定し、早

ければ、来年5月に開かれる総会時に第1回の表彰を行いたい考えだ。

JABMEEが発行している月刊の機関誌「建築設備士」には、優れた技術を用いた竣工作品や論文、研究・開発の成果が掲載されており、他の学会などで表彰をされることも多いという。

JABMEEは、今秋創立20周年の節目を迎えるのを機に、独自の表彰制度を設けることにした。現在の構想では、プロジェクトと研究・開発の二つの部門で各1、2件優秀作品を選定する。毎年度表彰を行うか、隔年度で行うかなどは未定。

将来的には、日本の建築物の写真や図面を集めた「建築・空間デジタルアーカイブス(DAAS)」との情報の連携も検討していく。

(平成 21 年 9 月 8 日付 日刊建設工業新聞)